農産物直売所を題材にした栄養教育実習の評価（2）

—授業実施前後の農産物直売所への関心度の変化—

佐々木 晶子 酒井 治子

管理栄養士養成過程で学ぶ大学生において、農産物直売所への栄養教育の提案を通し、学生自身の農産物直売所への関心度や食物生産への関心度等に変化がみられるか、実習前後でアンケート調査（5段階評価）を行い、実習の学習効果について検討した。

その結果、農産物直売所への関心度や流通の仕組みへの理解度、農業への関心、農産物直売所での食育活動への興味、農産物等の生産・流通への関与意欲など、10項目中8項目で有意に高い値が得られた。このことより、今回の実習を通し、学生が農産物直売所への理解を深め、農産物直売所における食育の重要性、また、農産物の生産・流通・消費等の場面への管理栄養士の関わりを認識したことが示唆された。

キーワード：農産物直売所 食育 栄養教育 管理栄養士 アクティブラーニング

1. はじめに

食育基本法（平成17年法律第63号）¹⁾の制定より8年が経過した現在、国民の「食」に対する意識や「食育」に対する認識は高まっている。

平成25年3月に内閣府が発表した「食育に関する意識調査」の報告²⁾では、「食育」という言葉を知っていた人の割合は76.8%、また、食育に関心のある人の割合は、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」あわせて74.2%で、多くの国民が「食育」に関心を寄せていることがうかがえる。

一方、第2次食育推進基本計画（計画期間：平成23年度～平成27年度）³⁾において、国は平成27年度までに食育に関心を持っている国民の割合を90%以上にすると目標を掲げており、現状の値と差がみられる。食育基本法に、食育は「あらゆる世代の国民に必要なもの」(前文)とあるように、この目標を達成するためにはより多くの世代を対

象とした食育活動が必要となってくる。この第2次計画においては、「第1 食育の推進に関する施策についての基本的な方針」の重要課題の一つとして、「生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進」が掲げられ、子どもから成人、高齢者に至るまで、ライフステージに応じた間断ない食育を推進し、「生涯食育社会」の構築を目指すことが示された³⁾。そのためには、様々なライフステージの人々が集う場所での食育活動がより効果的と考えられる。

「食育」をキーワードにこれまでの調査報告を検索すると、その多くは保育所や幼稚園、小学校などにおける取り組みであり、子どもといった特定のライフステージを対象としている。子どもたちに対する食育は「心身の成長および人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となる」ものであるため、非常に重要である。しかし、今日の国民が抱える食の問題やそれに伴う健康課題を考えると、「生涯食育社会」のために

は食や健康に関心が薄い層や世代への食育活動が不可欠である。そのためには、先述したように、より多くのライフステージの人々が集い、かつ食に関わる場での食育が求められる。その一つに、スーパーマーケットや農産物直売所などの食材を提供する場や、レストランなどの食事を提供する場がある。特に、農産物直売所は近年の食の安全・安心への期待が高まるなかで、生産者の顔がみえる流通を実現する場として、全国的に成長を遂げており⁴⁾、消費者の農業に対する理解を深める等の効果がみられる^{5,6)}。

このような食に関わる場などの食環境が整備され、適切な食や栄養に関する情報の発信が行われれば、食や健康に関心が薄い層や世代であっても必然的にその情報に触れることができ、食生活改善の一端となるであろう。このように、日常的な食材購入の場や外食の場における栄養教育の必要性が高まるとともに、その場での管理栄養士の活躍も期待されている⁷⁾。

第1報では、管理栄養士養成課程における授業（東京家政学院大学現代生活学部健康栄養学科の科目「栄養教育実習Ⅱ」）において、学生が講義や実習を通して学んだ専門的な知識や技術を活かし、農産物直売所を題材にした栄養教育を提案、それに対する相互評価から教育効果を検証してきた。

本報では、第1報を受け、農産物直売所への栄養教育の提案を通し、学生自身の農産物直売所への関心度や食物生産への関心度等に変化がみられるか、実習の学習効果について実習前後でアンケート調査（5段階評価）を行い、関心度や意識に変化がみられるかを検討する。

なお、本研究は一般社団法人JC総研の「食材提供の場を活用した食育実践活動事業（農林水産省補助事業）」の一部として実施した。

2. 方法

2-1 対象

第1報で述べたとおり、平成25年度後期の授業科目「栄養教育実習Ⅱ（必修 1単位）」を履修した健康栄養学科の3年生3クラスで、各クラス41名、41名、39名の計121名である。

2-2 授業内容と構成

授業の目標や内容については、前報⁸⁾にて示した通りである。

2-3 アンケート調査時期

学生の農産物直売所等への関心度や地場産物の利用度等に関する意識調査については、授業の第2回目に事前調査を、第15回目に事後調査を実施した。

事前調査票と事後調査票の内容を表1に示す。評価は5段階で行った。

2-4 分析方法

アンケートは、「知っている・関心がある」が5点、「やや知っている・やや関心がある」が4点、「どちらでもない」が3点、「あまり知らない・あまり関心がない」が2点、「知らない・関心がない」を1点とし、その結果を点数化した。

また、Wilcoxonの符号順位和検定を用い、有意水準5%で統計分析を行った。

3. 結果

3-1 授業実施前における学生の農産物直売所等への関心度の評価

授業実施前の学生へのアンケート調査結果を、表2に示した。同時期に学外実習での実習があったため、有効回答者数は、事前、事後ともにアンケートの回答が得られた学生93名であった。

各質問項目について回答者の分布をみってみる。

まず、農産物直売所への関心度についてみると、「知っている・関心がある」と回答した学生は25名（26.9%）、「やや知っている・やや関心がある」と回答したものは50名（53.8%）であり、両者をあわせると75名（80.7%）であった。地場産物の利用度については、「知っている・関心がある」が4名（4.3%）、「やや知っている・やや関心がある」が13名（14.0%）、あわせて17名（18.3%）と少ない一方、「どちらでもない」「あまり知らない・あまり関心がない」「知らない・関心がない」と回答した学生をあわせて76名（81.7%）であった。また、この項目については「知らない・関心がない」と回答した学生が36名（38.7%）であり、

他の項目に比べ最も多かった。

流通のしくみへの理解度については、「どちらでもない」「あまり知らない・あまり関心がない」と回答した学生が多くみられた。食物生産への関心については、「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答した学生をあわせて76名(81.7%)と多くみられた。

食品購入時の生産地情報の活用については、

「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答した学生があわせて71名(76.4%)と多くみられた一方、食品購入時の生産者情報の活用への意欲については「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答した学生が52名(55.9%)で、半数程度にとどまった。

表1 調査票の内容

調査項目	質問内容	
	実習前	実習後
1. 農産物直売所への関心度	農産物直売所に 関心を持っていますか	農産物直売所に 関心を持ちましたか
2. 地場産物の利用度	農産物直売所等で 地場産物をよく購入していますか	農産物直売所等で 地場産物をよく購入していますか
3. 流通の仕組みへの理解度	農産物直売所における 販売の仕組みを理解していますか	農産物直売所における 販売の仕組みを理解しましたか
4. 食物生産への関心	(農産物)生産者と交流し、食物の生産に 関心をもちたいと思いますか	(農産物)生産者と交流し、食物の生産に 関心をもちたいと思いましたか
5. 食品購入時の 生産地情報の活用	食材を購入するとき、生産地を 参考にしていますか	食材を購入するとき、生産地を 参考にするようになりましたか
6. 食品購入時の 生産者情報の活用への意欲	食材を購入するとき、生産者の 情報を参考にしたいと思いますか	食材を購入するとき、生産者の 情報を参考にしたいと思いますか
7. 食品購入時の 生産履歴の活用への意欲	食材を購入するとき、農産物の 生産履歴を参考にしたいと思いますか	食材を購入するとき、農産物の 生産履歴を参考にしたいと思いますか
8. 農業への関心	農産物を取り巻く環境の変化 (農業従事者の高齢化やTPP等) について関心がありますか	農産物を取り巻く環境の変化 (農業従事者の高齢化やTPP等) について関心を持ちましたか
9. 農産物直売所での 食育活動への興味	農産物直売所における 食育活動に興味がありますか	農産物直売所における 食育活動に興味を持ちましたか
10. 農産物等の生産・流通への 関与意欲	将来、管理栄養士として農産物等の 生産や流通の場で関わりたいですか	将来、管理栄養士として農産物等の 生産や流通の場で関わりたいですか

評価方法: 5段階評価

5: 知っている・関心がある 4: やや知っている・やや関心がある 3: どちらでもない 2: あまり知らない・あまり関心がない 1: 知らない・関心がない

食品購入時の生産履歴の活用への意欲については、「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答した学生は29名(31.2%)であり、生産履歴の活用については積極的ではないことがうかがえた。

農業への関心については、51名(54.9%)の学生が「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答しており、多くの学生が農業への関心をみせた。

表2 授業実施前の農産物直売所に関する関心度

	クラス	5: 知っている・関心がある		4: やや知っている・やや関心がある		3: どちらでもない		2: あまり知らない・あまり関心がない		1: 知らない・関心がない		計
1. 農産物直売所への関心度	A	9	32.1%	13	46.4%	4	14.3%	0	0.0%	2	7.1%	28
	B	4	12.5%	23	71.9%	4	12.5%	1	3.1%	0	0.0%	32
	C	12	36.4%	14	42.4%	4	12.1%	3	9.1%	0	0.0%	33
	計	25	26.9%	50	53.8%	12	12.9%	4	4.3%	2	2.2%	93
2. 地場産物の利用度	A	1	3.6%	4	14.3%	3	10.7%	8	28.6%	12	42.9%	28
	B	2	6.3%	4	12.5%	6	18.8%	8	25.0%	12	37.5%	32
	C	1	3.0%	5	15.2%	7	21.2%	8	24.2%	12	36.4%	33
	計	4	4.3%	13	14.0%	16	17.2%	24	25.8%	36	38.7%	93
3. 流通の仕組みへの理解度	A	0	0.0%	5	17.9%	8	28.6%	12	42.9%	3	10.7%	28
	B	0	0.0%	1	3.1%	14	43.8%	15	46.9%	2	6.3%	32
	C	0	0.0%	8	24.2%	10	30.3%	14	42.4%	1	3.0%	33
	計	0	0.0%	14	15.1%	32	34.4%	41	44.1%	6	6.5%	93
4. 食物生産への関心	A	12	42.9%	12	42.9%	2	7.1%	1	3.6%	1	3.6%	28
	B	4	12.5%	22	68.8%	5	15.6%	1	3.1%	0	0.0%	32
	C	13	39.4%	13	39.4%	5	15.2%	1	3.0%	1	3.0%	33
	計	29	31.2%	47	50.5%	12	12.9%	3	3.2%	2	2.2%	93
5. 食品購入時の生産地情報の活用	A	9	32.1%	9	32.1%	6	21.4%	2	7.1%	2	7.1%	28
	B	10	31.3%	19	59.4%	2	6.3%	1	3.1%	0	0.0%	32
	C	10	30.3%	14	42.4%	8	24.2%		0.0%	1	3.0%	33
	計	29	31.2%	42	45.2%	16	17.2%	3	3.2%	3	3.2%	93
6. 食品購入時の生産者情報の活用への意欲	A	6	21.4%	10	35.7%	8	28.6%	2	7.1%	2	7.1%	28
	B	4	12.5%	13	40.6%	10	31.3%	5	15.6%	0	0.0%	32
	C	9	27.3%	10	30.3%	10	30.3%	3	9.1%	1	3.0%	33
	計	19	20.4%	33	35.5%	28	30.1%	10	10.8%	3	3.2%	93
7. 食品購入時の生産履歴の活用への意欲	A	2	7.1%	10	35.7%	13	46.4%	0	0.0%	3	10.7%	28
	B	0	0.0%	4	12.5%	14	43.8%	10	31.3%	4	12.5%	32
	C	3	9.1%	10	30.3%	12	36.4%	6	18.2%	2	6.1%	33
	計	5	5.4%	24	25.8%	39	41.9%	16	17.2%	9	9.7%	93
8. 農業への関心	A	6	21.4%	7	25.0%	11	39.3%	3	10.7%	1	3.6%	28
	B	2	6.3%	13	40.6%	9	28.1%	7	21.9%	1	3.1%	32
	C	6	18.2%	17	51.5%	7	21.2%	3	9.1%	0	0.0%	33
	計	14	15.1%	37	39.8%	27	29.0%	13	14.0%	2	2.2%	93
9. 農産物直売所での食育活動への興味	A	10	35.7%	12	42.9%	4	14.3%	1	3.6%	1	3.6%	28
	B	3	9.4%	22	68.8%	6	18.8%	1	3.1%	0	0.0%	32
	C	13	39.4%	15	45.5%	5	15.2%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	26	28.0%	49	52.7%	15	16.1%	2	2.2%	1	1.1%	93
10. 農産物等の生産・流通への関与意欲	A	6	21.4%	10	35.7%	8	28.6%	3	10.7%	1	3.6%	28
	B	1	3.1%	10	31.3%	19	59.4%	2	6.3%	0	0.0%	32
	C	5	15.2%	13	39.4%	12	36.4%	3	9.1%	0	0.0%	33
	計	12	12.9%	33	35.5%	39	41.9%	8	8.6%	1	1.1%	93

農産物直売所での食育活動への興味については、75名（80.7%）が「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答しており、食育活動に対する関心度の高さがみられた。農産物等の生産・流通への関与の意欲につい

ては、「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答した学生があわせて45名（48.4%）、「どちらでもない」「あまり知らない・あまり関心がない」と回答した学生があわせて48名（51.6%）であった。

表3 授業実施後の農産物直売所に関する関心度

	クラス	5:知っている・関心がある		4:やや知っている・やや関心がある		3:どちらでもない		2:あまり知らない・あまり関心がない		1:知らない・関心がない		計
1. 農産物直売所への関心度	A	13	46.4%	13	46.4%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	17	53.1%	14	43.8%	1	3.1%	0	0.0%	0	0.0%	32
	C	21	63.6%	11	33.3%	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	51	54.8%	38	40.9%	4	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	93
2. 地場産物の利用度	A	0	0.0%	6	21.4%	8	28.6%	11	39.3%	3	10.7%	28
	B	2	6.3%	5	15.6%	3	9.4%	11	34.4%	11	34.4%	32
	C	2	6.1%	4	12.1%	6	18.2%	14	42.4%	7	21.2%	33
	計	4	4.3%	15	16.1%	17	18.3%	36	38.7%	21	22.6%	93
3. 流通の仕組みへの理解度	A	9	32.1%	12	42.9%	7	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	6	18.8%	20	62.5%	6	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	32
	C	3	9.1%	23	69.7%	7	21.2%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	18	19.4%	55	59.1%	20	21.5%	0	0.0%	0	0.0%	93
4. 食物生産への関心	A	15	53.6%	8	28.6%	5	17.9%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	7	21.9%	19	59.4%	6	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	32
	C	15	45.5%	15	45.5%	3	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	37	39.8%	42	45.2%	14	15.1%	0	0.0%	0	0.0%	93
5. 食品購入時の生産地情報の活用	A	12	42.9%	11	39.3%	5	17.9%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	16	50.0%	14	43.8%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	32
	C	16	48.5%	15	45.5%	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	44	47.3%	40	43.0%	9	9.7%	0	0.0%	0	0.0%	93
6. 食品購入時の生産者情報の活用への意欲	A	14	50.0%	10	35.7%	3	10.7%	1	3.6%	0	0.0%	28
	B	13	40.6%	15	46.9%	3	9.4%	1	3.1%	0	0.0%	32
	C	19	57.6%	9	27.3%	4	12.1%	1	3.0%	0	0.0%	33
	計	46	49.5%	34	36.6%	10	10.8%	3	3.2%	0	0.0%	93
7. 食品購入時の生産履歴の活用への意欲	A	4	14.3%	14	50.0%	10	35.7%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	3	9.4%	14	43.8%	13	40.6%	2	6.3%	0	0.0%	32
	C	10	30.3%	13	39.4%	10	30.3%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	17	18.3%	41	44.1%	33	35.5%	2	2.2%	0	0.0%	93
8. 農業への関心	A	11	39.3%	11	39.3%	6	21.4%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	11	34.4%	15	46.9%	6	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	32
	C	12	36.4%	18	54.5%	3	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	34	36.6%	44	47.3%	15	16.1%	0	0.0%	0	0.0%	93
9. 農産物直売所での食育活動への興味	A	15	53.6%	11	39.3%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	28
	B	12	37.5%	18	56.3%	2	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	32
	C	19	57.6%	13	39.4%	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	33
	計	46	49.5%	42	45.2%	5	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	93
10. 農産物等の生産・流通への関与意欲	A	10	35.7%	9	32.1%	6	21.4%	3	10.7%	0	0.0%	28
	B	2	6.5%	16	51.6%	13	41.9%	0	0.0%	0	0.0%	31
	C	3	9.1%	20	60.6%	9	27.3%	1	3.0%	0	0.0%	33
	計	15	16.3%	45	48.9%	28	30.4%	4	4.3%	0	0.0%	92

3-2 授業実施前後の学生の農産物直売所に対する関心度の変化

授業終了時に行った農産物直売所等に関するアンケート調査結果を表3に示した。また、事前事後の関心度の変化を表4に示した。

表3より、項目「1. 農産物直売所への関心度」「3. 流通の仕組みへの理解」「4. 食物生産への関心」「5. 食品購入時の生産地情報の活用」「6. 食品購入時の生産者情報の活用への意欲」「7. 食品購入時の生産履歴の活用への意欲」「8. 農業への関心」「9. 農産物直売所での食育活動への興味」「10. 農産物等の生産・流通への関与意欲」において、実習前に比較し実習後に「知っている・関心がある」「やや知っている・やや関心がある」と回答した学生数が増加していた。このうち、「1. 農産物直売所への関心度」「3. 流通の仕組みへの理解」「5. 食品購入時の生産地情

報の活用」「6. 食品購入時の生産者情報の活用への意欲」「7. 食品購入時の生産履歴の活用への意欲」「8. 農業への関心」「9. 農産物直売所での食育活動への興味」「10. 農産物等の生産・流通への関与意欲」においては、実習後に有意に値が高かった。(p<0.01)

4. 考察

今回、科目「栄養教育実習Ⅱ」において、農産物直売所で展開する食育計画の立案を通し、学生自身の農産物直売所への関心度や農産物の生産・流通・消費等についての意識に変化がみられるか検討した。

結果より、調査項目10項目のうち「1. 農産物直売所への関心度」「3. 流通の仕組みへの理解度」「5. 食品購入時の生産地情報の活用」「6. 食品購入時の生産者情報の活用への意欲」「7. 食品

表4 授業前後の学生の農産物直売に関する関心度の変化

調査項目	関心度		
	授業前	授業後	
1. 農産物直売所への関心度	3.9±0.8	4.5±0.6	**
2. 地場産物の利用度	2.2±1.2	2.4±1.2	
3. 流通の仕組みへの理解度	2.5±0.7	4.0±0.7	**
4. 食物生産への関心	4.0±0.8	4.1±0.7	
5. 食品購入時の生産地情報の活用	4.1±0.9	4.4±0.7	**
6. 食品購入時の生産者情報の活用への意欲	3.5±1.0	4.3±0.8	**
7. 食品購入時の生産履歴の活用への意欲	2.8±1.0	3.6±0.7	**
8. 農業(従事者の高齢化, TPP等)への関心	3.3±1.0	4.2±0.7	**
9. 農産物直売所での食育活動への興味	3.9±0.8	4.4±0.6	**
10. 農産物等の生産・流通への関与意欲	3.4±0.8	3.7±0.8	**

評価方法: 5段階評価

5: 知っている・関心がある 4: やや知っている・やや関心がある 3: どちらでもない 2: あまり知らない・あまり関心がない 1: 知らない・関心がない

平均値±標準偏差, n=93

**p<0.01

Wilcoxonの符号順位和検定

購入時の生産履歴の活用への意欲」「8. 農業への関心」「9. 農産物直売所での食育活動への興味」「10. 農産物等の生産・流通への関与意欲」の8項目で、実習後に有意に高い値が得られた。このことより、今回の実習を通し、学生が農産物直売所への理解を深めるとともに、農産物直売所における食育の重要性、また、農産物の生産・流通・消費等の場面への管理栄養士の関わりに気付くことが出来たと考えられる。農産物直売所という場での食育活動に携わることは、管理栄養士を目指し学ぶ学生にとって、食の大切さや食流通の重要性を理解するとともに、管理栄養士のあらたな役割を見出す機会となり得たと考える。

森田は、そもそも食育の必要性が説かれるようになった食とそれに起因・付随する問題点としていくつかあげているが、その中に、①家庭において、食材に関する知識、調理技術、食文化、食に関するマナーなどを継承することが難しくなりつつあること、②食料資源の浪費、③食料の海外依存が進行し、食料自給率が低下していることがある^{9,10)}。農産物直売所における食育は、食材の活用だけではなく、消費者と生産者をつなぐことで、食材に関する知識や調理技術、その地域の食文化などを継承することが出来るのではないだろうか。また、生産者の顔がみえることで、食材を大切に思う気持ちをはぐくむきっかけにもなると考えられる。このような消費者と生産者を「食」でつなぐ場面において、管理栄養士が関われる可能性は大いにあり、農産物直売所などは「生涯食育」の場として重要であると考えられる。

近年、「アクティブラーニング」という新しい学び方が注目されているが、今回の実習も、まさにその一つと言えるだろう。学生からは今回の実習を通し、効果的な食育計画立案の難しさを学べたという声とともに、自らが立案した食育計画が実際に農産物直売所において展開されることへの喜びの声がきかれた。それにより、学生は自己効力感を得ることができ、次の学びへの意欲へとつ

ながることが考えられる。

本研究の結果は、学生への教育効果、授業内容の評価という側面において、意義のある結果が得られたのではないか。今回の結果を、今後の学生教育へとつなげたい。

文 献

- 1) 食育基本法 平成17年6月17日 法律第63号
- 2) 内閣府：食育に関する意識調査報告書
- 3) 内閣府：第2次食育推進基本計画
- 4) 堀野涼子・田又あすか、平野竜司、藤原佳代、山根絵美、山本彩佳、大浦由美、藤田武弘：JA農産物直売所における来店者の農業・地場産物に対する意識調査結果－大阪府岸和田市JAいずみの「愛彩ランド」を事例に－、観光学 第1号 (2012), pp.75-84
- 5) 日本政策金融公庫：農産物直売所に関する消費者意識調査結果, 2012
- 6) 農林水産省：産地直売所調査結果の概要－農産物地産地消等実態調査（平成21年度結果）, 2009
- 7) 酒井治子：第2章栄養教育のための基礎理論 6. 食環境づくりにおける栄養教育, 栄養教育論, 68-78, 建帛社, 2013
- 8) 農産物直売所を題材にした栄養教育実習の評価－学生が企画した教育内容の提案に対する相互評価－ (1), 東京家政学院大学紀要 第54号 (2014), pp.61-70
- 9) 森田倫子：食育の背景と経緯－「食育基本法案」に関連して－, 調査と情報－ISSUE BRIEF－ 457 (2004), pp.1-10
- 10) 鈴木道子・和泉眞喜子・早坂千枝子・千葉元子・阿部由希・和田稔・太田健二：「食育」の理念と幼児期食育実践について－栄養士・管理栄養士・栄養教諭養成校の役割を考える－, 尚絅学院大学紀要 第56集 (2008), pp.7-18

(受付 2014.3.26 受理 2014.5.28)